

## さすが元海上自衛官の群馬県知事

にれのき大澤正明群馬県知事が、22.1.4(月)平成22年群馬県庁年頭訓示において“艦(ふね)を頭より先に進めるな!”を引用しました。

本年の県税収入は大幅に落ち込むらしいので、平成22年度群馬県庁予算編成の財源不足を予測している大澤県知事が、「県の予算は全て県民から戴く尊い税金である。県の予算編成に当たり、部課長は、今までの成り行き等のしがらみに決して囚(とら)われる事なく取捨選択し、地に足をしっかり着けて、県民の為と確信の持てる予算を編成すべし。」と訓示し、「艦(ふな)乗りの諺(ことわざ)に“艦(ふね)を頭より先に進めるな!”がある。」と紹介しました。

年頭訓示後の記者会見で、或(あ)る新聞記者が「県知事が年頭訓示で述べられた“艦(ふね)を頭より先に進めるな!”とは、どのような意味なのでしょうか?」と質問しましたので、大澤県知事は「艦(ふね)を操艦する者が其(そ)の艦(ふね)を手足の如(ごと)く制御できる針路・速力は、操艦者の経験・技倆、艦橋関係員・運転関係員の技倆、自艦の状態〔排水量, トリム, 故障機器〕、海象〔波, うねり〕・気象〔天候, 視程〕などの環境条件及び海域特性〔港内, 狭水道, 行会船が輻輳(ふくそう)する航路交差点, 漁船が蝟集(いしゅう)する沿岸, 外洋〕によって異なります。そこで、操艦者は、各種要素を十分に考慮し、安全と経済とを十分に満足させる最適の針路・速力と為さねばなりません。これに反する操艦を戒(いまし)める艦(ふな)乗りの諺(ことわざ)が“艦(ふね)を頭より先に進めるな!”です。」と回答しました。

すると、“艦(ふね)を頭より先に進めるな!” 関連記事が 22.1.5(火)読賣新聞朝刊や上毛新聞朝刊に掲載され、県民からも反響があつて群馬県庁広報課に問い合わせが数十件も来たそうです。

さすが元海上自衛官の群馬県知事です。海候校20期生としても誇らしい気分です。善政を為す大澤正明君の益々の御活躍エンジョイ御健勝を祈念いたします。

写真は著作権上削除しています。

# 足元見据えしっかりと

## 仕事始め 知事、市長ら職員に訓示

4日、県内の官庁や多くの企業で仕事始めを迎えた。不況下で厳しい財政や経済情勢が続く中、各組織のトップからは「元氣」や「行動」といった前向きな言葉を盛り込みつつも、足元を見据えて進むことを促すような訓示が相次いだ。

職員に新年のあいさつをする大沢知事（4日、県庁で）

県庁では大沢知事が県職員約300人を前にあいさつした。10月の全国育樹祭や来年の北関東自動車道全線開通などを明るい話題として挙げ、「今年一年しっかり取り組んで、元氣な群馬県を作っていきたい」と述べた。

元海上自衛官の知事らしく、船を操る際に制御ができる速度を守ることが大切という意味の「船を頭より先に進めるな」との格言を引き、「われわれが扱っているのは県民の尊い税金。厳しい時こそ、しっかり慎重に考えていかなければならない」と述べ、税収が落ち込む中、慎重な予算編成を行う考えを示唆した。

前橋市役所の仕事始めの式では、400人近い職員を前に高木政夫市長が「生

命都市いきいき前橋」の具現化のため、行財政改革に積極的に取り組みたい」などとあいさつ。また、政務調査費問題を抱える市議会の中島資浩議長は「市民の視線に立って議会改革、信頼回復に努めていきたい」と決意を語った。

伊勢崎市では五十嵐清隆市長が幹部を前に、「市民の元氣、豊かさ、安心の確保を。知恵を出し合い、市民に誠意をもって接することが大事」などと述べた。

経済・産業界では、自らを鼓舞するような言葉も聞

かれた。

群馬銀行(前橋市)では、朝礼時に四方浩頭取が映像を通じてあいさつ。「選ばれる銀行になるため、対応と説明をきちんとして他行との差別化を。チャレンジを忘れず、果敢に行動していこう」と語った。また、宇宙関連機器を手がける明星電気(伊勢崎市)では、上澤信彦社長が従業員に「自律の中に気配りを」とのスローガンを示し、「自ら考え、そして楽しみながら仕事に取り組むように」と呼びかけた。



## 「元気な群馬を」

大沢知事が  
年頭あいさつ

大沢正明知事は4日、県庁昭和庁舎で職員約300人に年頭のあいさつを行い、「元気な群馬県、はばたける群馬県をつくってほしい」と抱負を述べた。写真。

大沢知事は景気や雇用について「引き続き厳しい環境にあるが、群馬県は若干ながら上向き方向性が見えてきている」との認識を述べた。また、今秋に本県開催される全国育樹祭や来夏に本県を対象に展開され

る国内最大級の観光PRイベント「デステイネーションキャンペーン」などに言及し、市町村と連携して本県の知名度向上や観光振興などに生かす決意をあらためて示した。

その上で「我々が扱っているお金は県民の尊い税金。厳しいときこそ（使い方を）しっかりと慎重に考えなければならぬ」と強調。情性に任せず、自分が操縦できる範囲の速度を維持するように戒める「船を頭よりも先に進めるな」との言葉を紹介して「私自身も地に足が着いた県政のかじ取りをしていきたい」と結んだ。

大沢知事年頭あいさつの写真（著作権上削除しています。）